

2023 年度(令和 5 年)

事業計画書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念	2
2	基本方針	3
3	理事会及び評議委員会の開催.....	4
4	施設概要	5
5	介護部門	6
(1)	入所・住居系.....	6
①	特別養護老人ホーム	6
②	ショートステイサービス.....	11
③	グループホーム アクール.....	12
④	軽費老人ホーム	13
⑤	サービス付き高齢者向け住宅	13
(2)	通所系	14
①	デイサービス	14
(3)	訪問系	15
①	訪問介護ステーション	15
②	訪問リハビリテーション.....	15
(4)	居宅介護支援事業所.....	16
(5)	配食サービス.....	17
6	医療部門	18
(1)	平城園診療所	18
(2)	あきしの整形外科クリニック	18
7	保育部門	19
(1)	登美ヶ丘マミーズ保育園	19
(2)	福寿会マミーズ保育園.....	22

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和4年度のテーマは地域共生、人材育成、デジタル化であった。地域共生については、法人初の地域密着型事業であるグループホームの整備、地域の健康寿命延伸に資するリハビリサービスの拡充、処方箋薬局の誘致に取り組んだ。これらが形になるのは、令和5年度中であり、引き続き継続課題として取り組んで参る。人材育成については、専門部署として人事部を創設した。人材育成体制の構築に向けて、人員の確保、人材流出の抑制に注力した。デジタル化については、法人内の一部介護現場において、見守り機器と、現場コミュニケーションツールとしてのインカムを導入した。令和5年度は同システムの活用による業務効率化、効果検証後の追加導入を進めて参る。

令和5年度のテーマはアフターコロナ、経営基盤の確立、人材育成である。

令和4年度は、当法人でも3度のクラスターを経験した。それ以外でも、多くのコロナウイルスに関する報告が上がってくる日々が続き、コロナウイルスの存在感は大きかった。一方で、正しい感染症対策を講じることで、感染拡大を防ぐことが出来るという実感もあり、未知のウイルスでは無くなったように感じる。令和5年度は、コロナウイルスと共存した福祉のあり方を形にしていきたい。

令和5年度は、整形外科診療所、通所リハビリ施設、グループホーム、有料老人ホームの開設を予定している。併せて、物価や燃料費の高騰もあり、コストの拡大が見込まれる。このような状況を受けて、経営基盤の確立を年度のテーマとした。コストの見直し、収入機会や加算の確認、必要に応じた価格転嫁を行い、経営の安定化を図る。

人材育成は、前年度からの継続テーマとして取り組むものである。人事評価体系の見直しにより、職員の頑張りが正しく処遇に反映される体制を構築し、職員のモチベーション向上を図る。

3 理事会及び評議委員会の開催

1) 2023 年度における理事会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2023 年 6 月	2022 年度 事業報告・決算報告
2024 年 3 月	2023 年度 補正予算 2024 年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

2) 2023 年度における評議員会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2023 年 6 月	2022 年度 事業報告・決算報告
2024 年 3 月	2023 年度 補正予算 2024 年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

3) 選任解任委員会を、次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
適宜開催	評議員の選任及び解任

4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホーム平城園	
ショートステイ		平城園ショートステイ	
グループホーム		グループホーム アクール	
サービス付き高齢者向け住宅		ヴィラ秋篠	
デイサービス		奈良デイサービス	
デイケア		平城園デイケア (名称仮)	
訪問介護ステーション		平城園ホームヘルプステーション	
訪問リハビリテーション		平城園訪問リハビリテーション	
居宅介護支援事業		平城園在宅介護支援センター	
配食サービス		福寿会配食サービス	
内科診療所		平城園診療所	
整形外科診療所		あきしの整形外科クリニック	
企業内保育所		福寿会マミーズ保育園	

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホームならやま園	
ショートステイ		ならやま園ショートステイ	
デイサービス		ならやま園デイサービスセンター	
訪問介護ステーション		ならやま園ホームヘルプステーション	
居宅介護支援事業		ならやま園居宅介護支援事業所	
軽費老人ホーム		ケアハウス ニューライフならやま	

施設 3

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業		事業所名	
認可型保育所		登美ヶ丘マミーズ保育園	

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和4年度は「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」「医療面の充実」をテーマとした。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は同年度も続き、当施設でもクラスターを経験したが、職員個々の感染症対策力の向上、他フロアとの連携等により、被害を最小限に抑え乗り越えることが出来たのは大きな収穫であった。医療面の充実については、新任の常勤医師と現場との連携が進んだことで成果が出てきた。令和5年度は、継続課題として「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」に取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

■ 体制づくり

コロナ禍で、培ってきた感染予防のへ意識を継続しつつ、コロナ禍前への生活が少しでも取り戻せるように取り組んでいく。また、感染症が終息した時に備え、利用者が少しでも楽しく、安全に安心した生活を送っていただける様に準備に取り組む。

法人間の情報共有を行いつつ応援体制の強化、ITC化を進め業務の効率化に取り組んでいく。

■ 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり

今年度は、新規事業がスタートする中、新規雇用、職員の配置の検討、人事異動を活発に行い、雇用の安定化を図る。

対外に向けての情報の発信を積極的に行い、雇用に繋げられるように取り組む。

職員が安心して働ける職場環境、風土づくり取り組んでいく。

■ 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実

コロナ禍で取り組んできた感染予防策を見直し、再検討を行い、コロナ前の生活を取り戻すべく準備を行う。

将来、必ず来る地震などの災害に備えて、実践可能な事業継続計画を見直す。福祉避難所設置に向け、地域との情報共有、訓練の実施を行い、災害時には、福祉の拠点と成るべく取り組んでいく。

➤ 介護部門（ユニット型特養）

■ 個別ケアの推進

個々の思いに沿った生活に近づけられるよう柔軟かつ、個別援助を意識しながら、チームケアを実践する。

認知症とその方を理解し、受容したケアと環境づくりを行う。

■ 環境づくり

安全面を備えつつ、居心地の良いすまいの空間づくりを継続する。
入居者、職員共に安全、安心に過ごすため、福祉機器の積極的な導入と適切な使用をする。また、身体介護のスキルも身につけていく。

➤ 看護部門

- 利用者の人権を尊重し「安心・安全」「納得・信頼」のある看護を提供する。
- 利用者の健康管理、異常の早期発見
 - 日々の状態観察を行い、介護士との連携を図る。
 - 看護師間で情報共有、統一した看護を提供する。
 - 体調の変化は速やかに医師へ報告し、適切な医療が提供できるよう努める。
 - 医療機関や他職種、家族との連絡調整を図り安心して治療が受けられるよう援助する。
- 感染症の対策
 - 平常時の感染症対策を徹底し、職員に対し注意喚起や対応策をとる。
 - 全職員がマニュアルに沿った正しい知識を持ち統一したケアが出来るよう努める。
 - 感染症発生時には感染症対策委員会を設置、迅速に対応し感染拡大を防止する。
- 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供
 - 他職種との連携を図り、対象者の尊厳に配慮しつつ身体的・精神的苦痛を緩和した看護を提供する。
- 褥瘡発生予防の体制
 - 褥瘡対策に対するケア計画の実施と、多職種協働により連携を図り発生予防に努める。
 - 定期的な研修の実施。
 - 発生時は早期治癒出来るように対応する。
- 介護職員との連携による医療的ケアの実施
 - 医療的ケア対策推進委員会の開催（職員教育・研修の実施）
 - 認定特定行為業務従事者研修受講者の実地研修。
- 人材の育成
 - 看護実習施設として、看護学生の実習を受け入れ人材育成に取り組む。

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し、多職種連携のもと「身体機能」「生活機能」の維持・向上を図る。

- 主観的及び客観的評価を基に個別機能訓練計画書を作成し、身体機能の維持・向上の為に科学的根拠に基づいた機能訓練を実施する。
- 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上を図るよう、介助方法の指導・伝達等多職種との連携を取る。
- 体動が困難な利用者には適切なポジショニングを行い関節拘縮、褥瘡の予防を図り、より安楽な姿勢で過ごせる環境提供を行う。
- 基本的な感染症対策のほか、新型コロナウイルス感染症対策として機能訓練指導員一人につき 1日1フロア制にし、動線を明確にする。

➤ 栄養管理部門

- 施設は利用者の生活の場である事を意識し、家庭的で各個人の嗜好も考慮し、食を通じて生きる喜びを味わえる食事作りに取り組むと共に、一人ひとりの身体状況に適した食事、より安らかな日々を維持する為の食事作りに取り組む。
- 旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食、好み食の実施により季節の移り変わりや、生活の中に変化と楽しみのある食事を提供していく。
- 給食会議等で、職員との連携を強化し、ニーズの把握に努める。又、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、防止対策を行い、フロアごとのランチパーティーやおやつパーティーなど、楽しんで頂けるサービスを実施する。
- 栄養ケアマネジメントの実施、療養食の実施、経口維持食の実施により、利用者の栄養改善にとり組むと共に加算獲得により経営面にも貢献する。
- 非常食について、すべての職員が内容を把握して、いざという時に活用できるように備える。
- 配食サービスでは、福祉施設で作る強みを生かし、高齢者に適した食材、栄養のバランス、衛生面に力を入れて作っていく。
- デイサービスの利用者に喜んでいただけるような季節感のある食事や行事食も提供していく。
- 企業内保育所で子供の年齢に合わせた食事の提供と、食べることを楽しみに感じてもらえるような安全でおいしい食事の提供をしていく。

➤ ボランティア部門

- 季節の行事の楽しみ方を工夫し、感染症にも配慮しながら介護職員と連携し、利用者の楽しみとなる余暇活動が提供できるよう新たな活動の展開を目指す。

▶ 介護サービス支援室

- 本年度も、利用者に先ずは安全、安心して生活して頂けるようにご支援をする。
- その上で日常を取り戻していけるよう、面会方法や外出等の検討をしていきたい。
- 新しい生活様式に沿った施設生活の確立を目指し、利用者や家族によりご支持頂ける施設づくりを目指す。
- ICTの活用を積極的に推進し、業務の効率化、サービスレベルのアップにつとめる。また、職員の研修については、WEB研修を基本としながらも、対面での研修も実施できるようにし、より充実した研修体制を構築したい。

b 特別養護老人ホームならやま園

令和4年度は7月～8月にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者、職員とも感染してしまうことがあった。病状が重症化することはないが、利用者、家族に心配をかけてしまうこととなった。今年度も続くことが予想される感染症の脅威から利用者を守っていきたい。

11月から始まったならやま園の大規模改修は順調に進み、利用者には綺麗になった施設で新しい生活を送って頂けることとなった。職員も気持ちを新たに勤務していきたい。また3月に導入したIT機器（見守り機器、通信機器）を有効的に使用し、業務の効率化を図りながら、利用者の生活がより良いものとなるように精進していきたい。

▶ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

- 介護の人材育成について、施設内外の研修に積極的に参加を促し次の世代のリーダーを育成する。また、意欲的に仕事を続けるように職場内の環境を整え離職を減らす。
- IT機器を効果的に使用し、介護職員の負担軽減、業務の効率化を図りながら利用者の安全を守る。また科学的介護を推進する。
- 地域の防災拠点としての役割を果たせるように、大規模災害の対策を講じる。奈良県大規模災害対策チーム（DWAT）や行政機関、地域の方とも協力体制を築き、奈良市福祉避難所の設置に際しての防災訓練を行う。
- 当園の魅力をホームページやブログなどで発信し、入所を希望する方、家族、就職を希望する学生などに安心して来園して頂けるようにする。
- コロナウイルス感染症や他の感染症について対策を取ることで利用者や家族の命を守る。

➤ 看護部門

- 本人・家族の望む最期を迎えられるように、家族・介護職・医療職とのコミュニケーションを密にして、「施設だからできる」看取り介護を提供する。
- 職員の心身の健康を守る為、健康診断とストレスチェックの結果に基づいて産業医と連携・面談を通して働きやすい職場作りに努める。
- コロナウイルス感染症をはじめとする感染症一般の予防対策を行う。

➤ 機能訓練

- 日常生活を営む必要な機能が維持向上するために、利用者や家族の意向を尊重した上で多職種と連携して個別機能訓練計画書を作成し訓練を実施する。
- 利用者の能力を引き出すための環境調整や関わり、体動が困難な利用者へのポジショニングや環境調整を多職種と連携を図り行う。
- 機能訓練の立場から他職種の仕事の改善に貢献することで、他職種の負担軽減につながり、ひいては利用者の生活環境の改善に貢献できるようにする。
- 機能訓練指導員の活動範囲は基本として一日一フロアとし、動線を明確にして感染症の予防を行う。

➤ 栄養管理部門

利用者の生活がより豊かになり健康を維持して頂けるよう、安全で喜ばれる食事の提供に取り組む。個々の利用者の嚥下状態や身体状況に適した食事や嗜好を考慮した食事の提供に努める。

- 栄養ケアマネジメントの実施や療養食の提供により、多職種協働で利用者の健康維持に努める。
- 日常生活に変化や楽しみを持って頂けるよう、家庭的で季節感のある食事や行事食、誕生食（1回/月）、好み食（1回/月）、選択食（1回/週）の提供を行う。おやつレクリエーションは新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら感染症対策を行い実施する。
- ミールラウンドや給食会議、職員との情報交換等により、利用者の嗜好や嚥下状態等を把握し食事内容の向上に努める。より安全に食事をして頂けるよう、随時食事形態の見直しを行う。
- 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供に努める。研修会への参加や施設内食中毒予防研修も行う。
- 非常災害時に備えて非常食を使い捨て容器と共に3日分備蓄し、無駄なく入れ替えを行う。非常災害時に全職員が活用出来るように備える。

➤ ボランティア部門

- 令和4年度も新型コロナウイルス感染症により、ボランティアの活動を中止せざるを得なかった。その中でケアハウスやデイサービスでのイベントや移動スーパーの導入に関しての手伝い、利用者のおやつ販売などの援助を行った。感染症の状況が落ち着き次第、ボランティアを募集し、利用者を癒せる援助を行っていきたい。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

まずは安心してご利用頂けるように支援をしていきたい。地域の利用者家族の負担軽減と在宅生活継続に、より一層寄与できるよう事業の認知度アップ、サービスレベルの向上をはかる。

- 安全面には十分配慮し、途切れることなく地域の方の在宅生活の継続のお手伝いができるようにしたい。
- 新規利用者の獲得と合わせて既存利用者に定期的な利用を頂き、安定稼働を目指す。
- ご利用者、ご家族のお声を頂ける関係性を構築し、利用者、家族の要望や不安点に対応していけるように必要時、サービスの提供方法について検討する。

b ならやま園ショートステイサービス

利用者の高齢化や重度化、“老々介護”に伴う介護力の低下や利用期間の長期化、医療ニーズ（ストマ、バルーン、在宅酸素）の高い利用者の受入れ依頼など、ショートステイを取り巻く環境は年々、変化してきている。令和5年度においても、日々変化する、求められるニーズに柔軟に対応すべく、介護専門職としての経験、知識を習得するとともに、各専門職との連携を強化し、職員個々のスキルアップを図ることで、より良いサービスの提供、質の向上に努めていきたい。

“ウィズコロナ”時代において安全なショートステイの受入れを提供できるよう、引き続き、職員一人一人が新型コロナウイルスについて正しい認識を持つとともに、感染対策マニュアル等を通して、基本的な感染症対策を含めた共通理解を深めていきたい。

- 職員の介護の質、サービスの質の向上を目指す。
利用者、家族、関係機関との連携を密に図り、個々のニーズを把握することで利用者の満足度の向上に努める。
- 地域の各事業所と連携し、新規利用者の受け入れを行うと同時に、既存利用者の安定した利用（安定稼働）を目指す。
- 引き続き、感染症対策を含めた共通理解を深めることで、安全な受け入れを提供する。

③ グループホーム アクール

人初の地域密着型サービスとして、本年度より認知症対応型共同生活介護（グループホーム）を開設。長年、秋篠・山陵町を中心とした地域の皆様に支えていただき培ってきた専門性をもった認知症ケアを、“心を込めて (=アクール)” 提供していきたいと考える。

認知症の高齢者が少人数で共同生活を送り、家庭的な雰囲気の中で安心感を得ながら、様々な日常生活を通じて生活意欲を高めることで、認知症の進行の緩和を目指していきたい。

➤ 認知症ケアの充実

- ホームが利用者にとって“居心地のよい空間”“やすらげる空間”となるように日々の生活においてやさしさや笑顔、あたたかさや安心感を大切にしていきたい。
- 利用者個々のニーズや心身の状態、またご利用者の生活歴や家族歴、歩んできた人生の歴史を尊重し、一人一人に寄り添った個別支援に努めていきたい

➤ 地域に根付いたホームづくり

- 「認知症になっても、住み慣れた地域で、地域の一員として生活を継続したい。」そんな思いを実現できるよう、家庭的な環境と地域住民との交流のもと、利用者が持つおられる能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように支援させていただく。
- 近隣の居宅介護支援事業所や各関係事業所等に積極的に広報活動を行い、当ホームを地域の皆様に認識いただくとともに、地域における社会資源の一つとしての使命を全うできるよう、2ユニット18名の安定稼働（満床）に努めていきたい。
- 運営推進会議などを通して、ホームの情報を発信するとともに、地域とのつながり、地域との連携強化を図る機会を大切にしていきたい。
- ホームが利用者にとって“居心地のよい空間”“やすらげる空間”となるように日々の生活においてやさしさや笑顔、あたたかさや安心感を大切にしていきたい。
- 利用者個々のニーズや心身の状態、またご利用者の生活歴や家族歴、歩んできた人生の歴史を尊重し、一人一人に寄り添った個別支援に努めていきたい

➤ 法人内事業所との連携

- 法人内他事業所（あきしの整形外科クリニック、平城園診療所、また特別養護老人ホーム平城園・ならやま園、サービス付き高齢者向け住宅“ヴィラ秋篠”）と連携・支援体制を整えることで、利用者、家族が安心して生活できるように支援させていただきたいと考える。

④ 軽費老人ホーム

a ケアハウス ニューライフならやま

令和4年度もコロナウイルス感染対策に重視して生活援助を行った結果、入居者に精神的ストレス及び生活に不安を抱かれる場面が多く見られた。又、外出や面会の問い合わせが多く対応にあたった。令和5年度も感染症対策は徐々に軽減される見込みではあるが、老人施設の立場として施設内で相談し日常生活を過ごしていただけるようできるよう検討していき入居者に楽しみを持ってもらえるように援助をしていきたい。

- 自立支援を目標に生活援助、生活環境を整える。
- 介護保険利用者のご希望に応じた項目を支援専門員に伝達する。
- 生活の場として充実した日常生活を援助していく。
- 趣味や興味等、余暇時間を楽しんで頂ける提供に心掛ける。
- 個別に不安や悩み事は無いか観察し相談して頂ける関係を作る。
- 身体的精神的低下の状況を家族様、支援専門員に伝達しケアハウスでの生活を長く続けられるよう相談の場を作る。

※年間3回程度の入居者参加の催し物を起案実施する。

(毎月行事)

- ・移動スーパーでの買い物(週1回)・訪問喫茶
- ・季節の行事の再開(外出等も含む)。
- ・代行買い物(月2回)

⑤ サービス付き高齢者向け住宅

a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

- 令和4年度においてもご入居者の中からコロナ陽性者が発生し、館内での療養を止む無くされる事態には至ったが、そこから他者に感染拡大が及ぶことはなく、うまく感染時の封じ込めを行うことが出来た。また、感染者が近場で出た際などに実施するヴィラ秋篠としての期間を区切った対応についても概ね確立することが出来た。
- 令和5年度においては、それらの実績を基に5類への移行というフェーズの変更を迎える中で、本来の住宅としての役割や機能、入居者の当たり前の生活を取り戻す一年となるように取り組んでいきたい。そして、ケアハウスや建設の進められている有料老人ホームとの人材やサービス面においても情報やサービスの共有を深めていき、住宅部における連携を深めていきたい。
- 2度に渡るコロナ陽性者の発生を受け、それでも職員が一丸となって入居者の生活を守り抜くことが出来た。この経験を基により臨機応変な対応ができるよう普段からの業務の効率化や改善に着手し、BCPの視点をもって環境を

整えていくよう努める。(職員体制の確保と、入居者の生活の質の維持を可能な限り両立させられるよう。)

- ▶ 福寿会の入所(入居)系事業所で一番地域に近い存在であるという視点を忘れず、地域のニーズをくみ取り実現していけるよう、常に向上心を持って前向きに取り組む住宅であることを目指す。

(2) 通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

- ▶ デイサービスの規模拡大を目指す

感染拡大の状況を踏まえ、新規利用者の獲得に向け営業活動を行う。また、土曜日の営業に向け職員増員を行う。

R5年度より開業予定の通所リハビリと連携をとり、お互いの良さを生かしご利用者満足を目指す。

- ▶ 職員のスキルアップと業務の簡素化

利用者の残存機能を生かしリスクを理解した上で介助者へも負担の少ない介助方法を分析・検討し定期的に伝達研修を行い職員の育成及びサービスの向上を行う。

記録ソフト導入に伴い書類業務時間の削減業務の簡素化、今以上にペーパーレス化を行う。業務マニュアルを見直し効率の良い業務を行いサービスの均一化を目指す。

- ▶ 感染症対策の徹底

新型コロナウイルス等感染症の拡大を最小限にとどめる為、平常時の感染防止の取り組みを徹底し、利用者及び職員の健康状態の確認を行い早期発見や早期対応に努めるよう情報を共有する。

現場では換気・消毒等こまめに行い、ソーシャルディスタンスを意識した支援を行い利用者とその家族が安心してサービスを受けられるように努める。

他部署や他事業所との連携をこまめに行い、早期に状況把握を行い、感染症拡大防止に努める。

b ならやま園デイサービスセンター

令和4年度は、利用者・職員ともにコロナ感染者が発生し、営業が難しい期間もあった。今年度は業務の改善を図り、感染症の予防も行いながら、より満足度の高いサービスを提供していきたい。

- ▶ タブレット記録を導入し業務の改善、効率化を進め職員の負担軽減を図ると共に、より一層利用者へのサービス充実を目指す。
- ▶ 新規利用者獲得、利用者頻度を高める事が出来るよう内部、外部の居宅事業

所との連携を密に取り、また広報活動の充実を行う。

- 忘れ物等のミスや事故に繋がることのないよう職員間の報告、連絡、相談を行う。
- 平均介護度が高くなる中で利用者の生きがい、役割作りを意識したサービス提供を目指す。
- 新型コロナウイルス感染症の第五類への引き下げとなる中、引き続き必要最低限の感染対策を行いながら利用者、職員共に安心して過ごせる環境を整える。

(3) 訪問系

訪問介護ステーション

a 平城園ホームヘルプステーション

- 訪問介護員の高齢化に伴い、新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。
- 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を深め、ケアプランに基づいた質の高い介護サービスを提供し、個別の状況に応じたサービスを提供する。
- 感染症対策を強化・徹底し、ご利用者様に安心してサービスを受けて頂く。
- ケアパレットを導入し記録・勤怠管理のICT化を導入し作業と情報共有の効率化を目指します。

b ならやま園ホームヘルプステーション

- 利用者の尊厳を尊重し、安心安全な日常生活が過ごせるように、ご家族との関りや他事業所との連携を大切にして日々のサービス提供に努める。
- 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、ご利用者に対して、従事者も安心して援助が、出来るように、こまめな換気、消毒はじめ感染予防を図っていく。
- 離職のヘルパーはないが、訪問介護員の年齢が上がっているため、新たな登録ヘルパーの人材確保に向けて拡充を目指していく。

① 訪問リハビリテーション

a 平城園訪問リハビリテーション

利用者及び家族の意向を尊重し、在宅生活に必要な身体機能・能力の維持向上を図る。

- 情報発信により実施地域での本事業の認知度を上げ、新規利用に繋げる。
- 利用者一人一人を主観的及び客観的に評価した上で、適切な目標を設定し計画に基づいた訓練を行い、QOLの維持・向上に努める。
- 利用者や家族に対し、療養上必要とされる事項等について丁寧に説明する。
- 医師・介護支援専門員と連携し、地域包括ケアの一員として利用者の日常生活の自立と社会参加を促進する。

(4) 居宅介護支援事業所

a 平城園在宅介護支援センター

➤ 令和5年度の目指すべき方向性

今年度は当法人内でグループホームおよびデイケアサービスの開設がありケアマネジャー各自が公正中立、質の高いケアマネジメントを提供し、尚且つ、当法人の収益アップにも貢献しなければならない。そのためにも、特定事業所加算Ⅱを算定する事業所として、法令順守は言うまでもなく、来る2024年度の介護報酬改定にむけて、今後より一層、質の高い居宅介護支援サービスを提供することで、選ばれる居宅介護支援事業所を目指して、ケアマネジャー各自のさらなるスキルアップと人材育成に努める。

➤ 特定事業所加算Ⅱを算定する事業所として

- 医療機関との連携の強化
- 地域包括支援センターからの困難ケースの受託体制の維持。
- 外部の研修および会議への積極的参加。
- 介護支援専門員実務者研修受け入れのための協力体制の維持。
- 圏域内の他の居宅介護支援事業所との勉強会への共同参画の継続。
- 毎週火曜日9時から部署内の連絡会議を開催。各ご利用者における連絡事項および、各種伝達事項の周知徹底を図る。
- 公正中立なサービス選択に基づいた支援の継続。
- 24時間連絡可能な体制の維持、確保。

➤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みへの参画

各地域包括支援センターが開催する会議、研修会への積極的参画

平城地域包括支援センター主催の自立支援型地域ケア会議(毎月第4火曜日13時～)に参加。会議を通して多職種の専門家と意見交換、連携を図る。

b ならやま園居宅介護支援事業所

重層的支援体制整備事業の創設にあたり、「8050問題」「ダブルケア」「若年性認知症」「ヤングケアラー」など介護保険のみならず、複合的な地域の課題を幅広く対応できる地域に根差した介護支援事業所を目指す。又、医療と介護の連携の質をより一層高めながら利用者が適正にサービスを選択していける利用者本位の支援を継続する。

➤ 地域包括支援センターとの連携

- 支援困難ケースの積極的な受託と連携
- 地域ケア会議の積極的な参加

➤ 居宅介護支援事業所の質の向上と効率化を図る。

- ケアプランデータ連携システムの導入。
- 事務処理の効率化を積極的に実施し業務負担の軽減を図る。

- 利用者に関する情報、サービス提供にあたっての留意事項に関する伝達等を目的とした会議を週1回（水曜日 17:00 より ZOOM）行う。
- 介護支援専門員の資質の向上を図るためにも ZOOM を積極的に活用し事業所内研修・外部研修・勉強会等へも積極的に参加する。
- 介護支援専門員がチームとして情報共有を出来るシステムの継続。
- 地域活動の継続
 - 地域活動（サロン）に定期的に参加し、地域の住民と介護保険制度、各施設、在宅サービスとの関係の橋渡しの役割を担ってきた。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の為、サロン活動が縮小となっていたが、令和5年度は引き続き、地域に寄り添う居宅介護支援事業所として活動を続ける。
- 居宅介護支援の適正化と利用者本位の支援
 - 公正中立なサービスの選択・情報の開示
 - 利用者の意思決定支援の尊重
 - 支援困難ケースの積極的な受託と連携
 - 地域ケア会議の積極的な参加
- 認定調査業務の受託（ケアマネ1人当たり月4件を目指す）

(5) 配食サービス

- 令和5年度は、5月の早い段階から新型コロナウイルスの扱いが2類から5類へ移行される予定となっている。配食事業そのものについては、コロナ禍であっても、また配達先のご利用者が陽性者であっても、従来通りお弁当を届け、安否確認を行う事は変わらず取り組んできた。
- フェーズが変わったとしても実施すべきことには変わりはないが、今年度は昨年度取り組もうとしたが、なかなか進めることが出来なかった以下の2点について集中的に取り組んでいきたい。
 - ここ数年で効率化の点から配達エリアの見直しを行い、成果は上がったがそのエリア下における新規顧客の獲得に向けて「計画的で、積極的な営業方法を確立し、実施していく。」
 - 提供するお弁当の質そのものにも目を向け、更なる顧客ニーズに応じていくためにも「栄養士や厨房と相談する機会を増やし、メニューの改編や、対応の幅についても改善を重ねる。

6 医療部門

(1) 平城園診療所

利用者の視点に立った気配りができる、信頼される医療を提供します

- 法人事業所の利用者及び職員の健康管理及び疾病治療・予防に努める。
管理医師、診療所看護師と特養看護師が連携を図り、利用者の日常的な回診を実施し、重症者への対応は関係医療機関と連携を図りスムーズな対応を行う。各種ワクチン接種などの感染予防、定期健康診断の実施による疾病早期発見に努める。職員の健康管理について、産業医と衛生管理者との連携を図り、法人全体衛生向上に貢献する。
- 地域の皆様に寄り添える医療の提供
何でも相談できる地域に根付いた医療が提供できる体制を整える。

(2) あきしの整形外科クリニック

- 地域の救急・整形外科診療のニーズにこたえるとともに高齢者の視点に立った信頼される医療の提供を目指します。
- リハビリテーションを充実しデイケアと連携を図りながら高齢者の健康寿命を援助します。

7 保育部門

(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園

令和4年度も新型コロナウイルス感染の対応に迫られる1年でした。通常保育はなかなか成立せず、園の保育も制限されてきましたが、子ども時代は今しかありません。園に来ている時は、出来得る限りの楽しい経験をさせてあげたいとの思いで子どもたちと向き合ってきました。開園当時から計画していた行事も規模を縮小し、感染予防対策を万全にしながら実施し、保護者の皆様にも園内に入っていただけるようになりました。乳児・幼児クラスで日を分散しての運動会や参観、作品展、生活発表会、幼児クラスの閑空への遠足、延期が重なりやっと実施できた夏祭り等、日頃の生活に変化と潤いのある経験を親子で楽しむことができました。園児数も徐々に増え、令和5年度は、全園児99名でスタートします。私たちは、常に子どもを真ん中に据え「子どもにとってどうなのか」を考えながら保育を構築し、「明日が待たれる楽しい保育園」づくりに努めたいと思います。

▶ 保育離縁、保育目標

- (基本理念)
 - ・子どもの基本的人権を尊重する
 - ・子どもの自立を支援する
 - ・子どもの心を癒す
- (保育理念)
 - ・心身の健全な育成を図り、豊かな「生きる力」
 - ・何でも自分でやれる考える「創造力」
 - ・優しい思いやりのある「温かい心」
- (保育方針)
 - ・自立心の尊重
 - ・基本的信頼感の確立
 - ・健康な体と豊かな感性を育て、生命の保持と安定を図り意欲的に生活できるようにする
 - ・基本的な運動能力を養い、積極的に運動する態度を身につける
 - ・自然や社会の事象にふれて、興味や関心を育て、人権を尊重することや、思いやりを育てる
 - ・積極的な園での友達との触れ合いを通して、創造性を培う
- (保育目標)
 - ・心身共に丈夫で逞しい子
 - ・優しい心の子
 - ・豊かでのびのびした子
 - ・挨拶ができる子
 - ・創造力のある子

➤ 保育理念、保育目標

■ 遊ぶ・感じる・創造する!

将来を自分の力で切り拓き、楽しく心豊かな人生を送るために「自分で考えて行動出来る子」「好きなことをみつけてとことん楽しめる子」「自分も友達も大切に出来る子」を育む。遊びの中で育つ、非認知能力を伸ばしていく。

■ 畑と共に育つ心

マミーズ農園で多くの野菜を育て、収穫した野菜は、給食でいただく。自分で育てたものを食することで「食べ物への興味」と「感謝」の気持ちを育んでいく。

■ 未来に夢を広げよう

外部講師による英語教室や、体育教室、希望者を対象にした課外保育でのダンス教室、英語教室、スポーツ教室に取り組み、経験の幅を広げながら好きな事を見付け、「興味や」「親しみ」をもてるようにする。

■ 思いやりと感謝!

法人の高齢者施設の方々との交流（コロナ禍では zoom 交流）や、手作りして下さる玩具を通して、その優しさや思いやりに触れ高齢者を敬う気持ちを幼児なりに育むようにする。
でいく。

➤ 来年度の重点的な取り組み

『生きる喜びを味わう保育園』

■ 丁寧な保育を行う

- ・子どもに寄り添い、子どもの思いを理解する。
- ・子どもの遊びに付き合い、興味・関心を探りとことん遊べるよう環境づくり

■ 安全・安心な保育を行う

- ・子どもの命を守ることを最優先にする。
- ・危険なことに気付いた時は、子どもの危機回避を優先し、相手に伝える。（不適切保育等）
- ・危険個所の点検を日々行い、チェックするとともに対策を講じる。

■ 保育の質の向上を目指す

- ・子ども主体の保育を構築するための環境づくりや工夫を行う。
- ・3つの資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識し、遊びの中でどんな力が育っているかを理解できるようになる。また、遊びを育てるための環境構成の在り方について学ぶ。
- ・各クラス年間1回の保育公開を行い、研修を通して学び合う。

- 開園時間
 - ・標準時間保育 7時から18時00分まで
 - ・短時間保育 8時30分から16時00分まで
 - ・延長保育 18時から19時30分まで保育を提供する（有料）
- 年間会議
 - ・職員会議（月1回） 理事長・園長・主任保育士・クラス担任・栄養士
 - ・給食会議（月1回） 理事長・園長・主任保育士・クラス担任・栄養士
 - ・処遇会議（月1回） 園長・担当保育士
 - ・リーダー会議（月1回） 園長・主任保育士・乳児、幼児リーダー
 - ・行事職員会議（随時） 園長・主任保育士・担当保育士
- 防災・防犯安全

毎月、避難訓練及び消火器訓練を行う。（年2回不審者訓練を含む）

経路の確認や、避難車の使用など、保育中における様々な災害に対して子どもたちと全職員が速やかに対応できるように訓練を行う。また火災・地震・水害等、色々な場面を想定し、非常事態に応じたの避難経路を知り、避難できるようにする。

 - ・避難訓練（年12回） ・消火訓練（年12回） ・不審者対応訓練（年2回）
 - ・交通安全教室（年2回） ・自主点検
- 保健衛生

健康や、安全を目的として、嘱託医による定期的な検診により子どもの健康状態を確認する。各検診によって早期発見、早期アドバイスをを行い、保育園生活健康に送れるよう援助する。

 - ・定期健康診断（年2回） ・歯科検診（年1回） ・眼科健診（年1回）
 - ・職員定期健康診断（年1回） ・検便検査（年12回） ・身体測定（年12回）
- 職員研修

専門職としての自己研鑽に努め、園での情報交換やコミュニケーションを深めながら互いの資質向上に努める。また、組織の活性化、質の高い保育の提供の為に、各クラス年1回の園内研修会及び新任研修会を行うとともに外部の研修にも参加しながら、保育士の質の向上を目指す。

 - ・園内研修会（各クラス） ・語り合い研修（随時）
- 地域交流

県立国際高校との交流
- 子育て支援
 - ・一時預かり保育の充実
 - ・0歳児の親子、妊婦さんを対象とした「マミーズ広場」を定期的に開催し、0歳児保育の魅力を伝え、0歳児の獲得に繋ぐ。
- 年間行事と主旨

- ・入園式、卒園式、誕生日会
子どもの成長の節目をお祝いする行事。
節目をお祝いすることで子ども自身が成長の自覚をもつようにする。
- ・七夕、豆まき、ひな祭り
日本に伝わる伝統的な行事。
遊びながら日本の伝統や慣習などを知る。昔からの行事や遊びを通して文化を受け継いでいく。
- ・運動会、夏祭り、生活発表会、保育参観
子どもたちの日頃の成果や成長を発表する行事。
楽しさ、高揚感、達成感、見てもらう誇らしさを味わう。最後まで頑張る力と仲間と協力することの楽しさも学ぶ。
- ・遠足、芋ほり
体験や活動を広げる行事。
自然に触れ四季の移ろいを見て感じることで、日常とは違う環境での体験によって、楽しみながら視野や活動の幅を広げる。
- ・施設訪問・敬老の日
社会性を育てる行事。
施設訪問をすることで、高齢者を理解し、交流を通して、挨拶やマナーの大切に気付いたり、優しさや思いやりの気持ちを育むようになる。

(2) 福寿会マミーズ保育園

従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供し、企業連携先のお子様に対しても同様のサービスを提供する。又地域枠を設け、積極的に地域の子どもを受け入れ定期利用の空き定員を利用した、一時預かりサービスを行う。

- 保育理念
 - ・心身の健全な育成を図り豊かな「生きる力」
 - ・何でも自分で出来る、考える「創造力」
 - ・優しい思いやりのある「温かい心」
- 保育目標
 - ・心身共に丈夫でたくましい子
 - ・優しい心の子
 - ・豊かでのびのびした子
 - ・あいさつができる子
 - ・想像力のある子
- 利用定員 11名（内地域枠5名）
- 開所時間 月曜日～土曜日
午前7時30分～午後18時30分
- 保育内容 自然豊かな環境を大切に、園外保育を通じて自然から学ぶ

豊かな感性を育む。

異年齢交流を中心とした、縦割り保育を取り入れ異年齢に対する思いやりと、社会性、協調性を育む。

感染症対策の為、手洗い、消毒、換気等を徹底して行う。

施設交流や、手作り玩具を通じて「ありがとう」の気持ちとお年寄りを敬う気持ちを育む。

■ 1日の流れ

- 7 : 30 順次登園 視診、触診、検温
- 9 : 30 朝のおやつ
- 10 : 00 設定保育
- 11 : 30 給食
- 12 : 30 午睡
- 15 : 00 おやつ
- 16 : 00 自由遊び
- 18 : 30 保育終了

■ 年間行事

	主な行事		主な行事
4月	入園	10月	いもほり・内科検診
5月	子どもの日・内科検診・個人懇談	11月	個人懇談
6月	歯科検診・歯みがき指導	12月	クリスマス・お餅つき
7月	七夕・水遊び	1月	お正月
8月	不審者訓練	2月	節分・不審者訓練
9月	施設交流	3月	ひなまつり

■ 毎月行事：誕生日会・身体測定

■ 避難訓練 毎月の避難訓練・消火訓練と年に2回の不審者訓練を行う。

■ 職員の資質向上

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行う。保育士1人1人の論理観、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚をもった保育士の育成を行う。職員は、自己評価に基づく課題を踏まえ保育所内外の研修を通じて、専門性を高めるため、必要な知識及び技術の習得、維持向上に努める。

- ・ 安全管理に関する研修・・・年2回
- ・ 子どもの人権に関する研修・・・年2回
- ・ 園内研修・・・年5回
- ・ 職員会議・・・随時